

- 問1 幕府が財政難を解消するために、小判の金の含有量を減らして利益を得た「元禄の貨幣改鑄」が行われた年はいつ？
- 問2 松尾芭蕉が、旅の体験を俳句と散文で綴った代表的な文学作品は何ですか？
- 問3 江戸時代、幕府から知行地を与えられ、寛政の改革における借金帳消しの対象となった、将軍直属の家臣たちを何という？
- 問4 江戸幕府が長崎貿易において、国内からの流出を厳しく制限した貴重な金属を何という？
- 問5 葛飾北斎や歌川広重の風景画が、後に美術史に大きな影響を与えた大陸はどこ？
- 問6 アイヌ民族が居住する地として知られ、明治時代に改称された現在の日本の地域を何という？
- 問7 18世紀後半にイギリスからの独立を宣言した、北アメリカの入植地を何という？
- 問8 享保の改革を行い、倭物の輸出を奨励して金銀の流出を防ごうとした将軍は誰？
- 問9 江戸時代後期、田沼意次の政治のあとに幕府の財政再建を目指して改革を行った人物は誰？
- 問10 井原西鶴が確立した、町人の生活や感情を写實的に描いた小説形式を何という？
- 問11 1637年に島原・天草一揆の首領となった人物は誰？
- 問12 松尾芭蕉が、旅の経験を元にして著した紀行文を何という？
- 問13 18世紀後半のフランスで、国王による絶対的な支配を倒し、自由や平等を求めた出来事を何という？
- 問14 江戸時代、全国の年貢米や特産物が集まり、物流の拠点として「天下の台所」と呼ばれた都市はどこ？
- 問15 江戸時代、幕府の財政基盤を支えるために、幕府が直接支配していた土地が日本全体の総石高の約何%を占めていた？
- 問16 江戸時代、朝鮮との外交や貿易の窓口として、幕府からその役割を独占的に任されていた藩を何という？
- 問17 江戸時代後期に江戸を中心に栄えた、町人文化の全盛期を何という？
- 問18 江戸時代、外国人の居住や貿易を制限するために、長崎の海上に作られた埋立地を何という？
- 問19 徳川吉宗が財政再建の一環として力を入れた、耕作地を増やす取り組みを何という？
- 問20 江戸時代、オランダを通して西洋の医学や文化を学ぶ学問を何という？
- 問21 江戸時代、株仲間などが営業の対価として幕府に上納した税金のことを何という？
- 問22 ロシアからの使節によって日本へ帰国した漂流民は誰？

## 答え合わせ・解説

問1	答え 1695年	1695年に実施された元禄の貨幣改鋳は、小判の金の含有量を意図的に減らして発行し、その差額を幕府の収入とする政策でした。貨幣の量を一時的に増やすことで経済活動を促進しようという狙いもありました。
問2	答え 『おくのほそ道』	松尾芭蕉は各地を旅しながら、優れた俳句と美しい散文を組み合わせた紀行文学『おくのほそ道』を執筆しました。それまでの遊びの要素が強かった俳諧を、精神性の高い芸術的な文学へと高めた点に大きな特徴があります。
問3	答え 旗本	旗本は、将軍の直臣として江戸城に勤務し、行政や軍事の役職に就いていました。彼らの経済状況が極端に悪化したため、幕府は「棄捐令」を出し、商人からの借金を一部帳消しにする特例措置を行いました。
問4	答え 金銀	幕府は国内の経済安定を図るため、長崎貿易における貿易額を制限し、通貨の元となる金銀の流出を極力防ごうとしました。特に良質な金銀が海外に渡るとは国内の通貨価値に影響を与えるため、幕府は貿易を厳しく管理しました。
問5	答え ヨーロッパ	浮世絵に見られる「大胆な構図」や「鮮やかな色彩」、そして「影のない平面的で独特な描き方」は、それまでの西洋絵画にはない手法でした。これらに感銘を受けたのが、フランスの印象派画家たちです。
問6	答え 北海道	明治維新後、政府は北方領土の守備と開発を目的として「開拓使」を設置し、1869年にこの地を「北海道」と改称しました。これにより本格的な開拓が始まり、多くの移住者が本土から渡りました。
問7	答え 13植民地	イギリス本国による課税強化に対し、入植地の住民たちは「代表なくして課税なし」と反発しました。1776年、これら13の植民地は独立を宣言し、長年の戦いの末にイギリスからの独立を達成しました。これが現在の「アメリカ合衆国」の起源となります。
問8	答え 徳川吉宗	徳川吉宗は「米将軍」とも呼ばれる享保の改革を主導し、財政の建て直しを図りました。彼は特に海外貿易の管理を強化し、金銀の流出を防ぐために、国内で産出された海産物（俵物）を輸出して海外の品物と引き換える政策を取りました。これにより、貿易収支の改善と国内産業の振興の両立を目指しました。
問9	答え 松平定信	老中に就任した松平定信は、厳しい倭約令を出して支出を抑えようとしていました。さらに、乱れた社会秩序を正すために「寛政の改革」を実施し、幕府の権威回復と財政の安定を目指しました。
問10	答え 浮世草子	井原西鶴は、『日本永代蔵』などの作品を通じて、町人の現実的な生活や経済活動、あるいは人間関係をリアルに描く「浮世草子」というジャンルを確立しました。それまでの物語とは異なり、読者である町人の共感を呼び親しみやすい内容でした。
問11	答え 天草四郎	1637年に肥前国島原と肥後国天草の農民やキリシタンらが起こした大規模な一揆の際、カリスマ的な指導者として擁立されたのが天草四郎です。彼はわずか16歳前後という若さでありながら、民衆の信仰を集め、幕府軍に対して激しく抵抗しました。
問12	答え おくのほそ道	『おくのほそ道』は、芭蕉が弟子の曾良とともに東北から北陸にかけて旅した記録です。文章と句が美しく融合しており、当時の日本の風情を現代に伝える文学作品として高く評価されています。
問13	答え 絶対王政	絶対王政とは、王が議会に縛られず、軍事力と官僚組織を駆使して国民を統治する制度です。しかし、度重なる戦争や贅沢な生活により国家財政は破綻寸前となり、国民の不満が爆発しました。1789年に起こったフランス革命は、この古い政治体制を根本から打ち破る市民革命となりました。
問14	答え 大坂	大坂には諸藩が年貢米を販売するための「蔵屋敷」が数多く置かれました。ここには日本中から米や商品が集まり、商人が活発に取引を行ったため、当時の物流と経済の中心地として「天下の台所」と称されました。米の取引価格を決める市場も形成され、全国的な物価の基準となっていました。
問15	答え 24	「天領」とも呼ばれる幕府の直轄地は、総石高の約24%を占めていました。これによって幕府は安定した米の収入を得ることができ、江戸という大都市を維持し、全国の藩を統制するための財政力を確保しました。
問16	答え 対馬藩	江戸時代になると、幕府から「通信使の接待」と「朝鮮との貿易」を公式に認められ、外交の窓口となりました。対馬藩は、朝鮮との経済的・文化的な交渉を一手に行い、幕府の鎖国政策のもとで安定した日朝関係を維持する重要な役割を担いました。
問17	答え 化政文化	江戸を中心に、歌舞伎や浮世絵、小説などの娯楽が大きく発展しました。この時期の文化は、当時の元号である「文化・文政」から「化政文化」と呼ばれます。喜多川歌麿や葛飾北斎による浮世絵や、十返舎一九の滑稽本などが代表的で、贅沢で遊び心のある雰囲気の特徴です。
問18	答え 人工島	出島は、長崎港の海岸を埋め立てて作られた扇型の人工島です。当初はポルトガル人を隔離するために築かれたが、後にオランダ商館がここに移転しました。限られた範囲内で居住・貿易を制限することで、幕府は外国の情報をコントロールしつつ、利益を独占しました。
問19	答え 新田開発	吉宗は、幕府主導で全国的な開墾を促進しました。湿地の干拓や山林の切り開きなどが行われ、年貢収入を安定させようとしていました。また、江戸の町が火災に弱かったため、「町火消」を組織して防火対策を強化するなど、民衆が安心して暮らせる社会を作るためのインフラ整備も同時に進めました。
問20	答え 蘭学	蘭学は、オランダ語で書かれた書物を翻訳して西洋の科学技術や医学を学ぶ学問です。杉田玄白らが西洋の医学書を翻訳した『解体新書』などが代表的であり、実証的な観察や実験を重んじる姿勢が日本の学問に大きな影響を与えました。
問21	答え 運上	運上は「冥加」と並び、株仲間の商人が営業を許可される対価として定期的に納める税金です。主に鉱山経営や特定の商売を独占している者から徴収されました。これにより幕府は商人の経済活動を公認し、全国的な流通網を管理下に置こうとしました。
問22	答え 大黒屋光太夫	伊勢国出身の大黒屋光太夫は、江戸へ向かう途中で遭難し、ロシアへ漂着しました。長い滞在生活の中でロシアの事情を学び、帰国を願い出て、1792年にラクスマンと共に根室へ帰還しました。彼の体験談やロシアに関する情報は、当時の知識人や幕府要人の間で大きな関心を引きました。